

公共交通地区別座談会
東虹苑地区

開催結果報告書

平成30年9月28日
館山市企画課

【もくじ】

0.公共交通地区別座談会の実施目的	3ページ
1.公共交通地区別座談会（東虹苑地区）実施概要	4ページ
2.東虹苑地区の特徴など	5ページ
2-1.東虹苑の位置（GIS地図から）	6ページ
3.館山市の公共交通の現状に関する説明	7ページ
4.路線バスの乗り方、65歳以上の免許返納者向け路線バス割引制度の説明	7ページ
5.グループワーク	8ページ
5-1.東虹苑 Aグループで出された意見	9ページ
5-2.東虹苑 Bグループで出された意見	11ページ
6.その他の意見等	12ページ

0.公共交通地区別座談会の実施目的

- ◆今年度及び2019年度（平成31年度）の2年をかけて策定する「館山市地域公共交通網形成計画」に、地域住民の生の声やニーズを収集し、分析を行う
- ◆分析結果については、計画内容になるべく具体的に反映させるとともに、当該地域における移動手段の必要性や確保策などについて検討するための資料とする
- ◆移動手段の必要性や確保策の検討結果を踏まえ、その導入や維持について検討していく

1.公共交通地区別座談会（東虹苑地区）実施概要

【日時】

- ◆2018年（平成30年）9月25日（火曜日）午前10時から午前11時40分

【会場】

- ◆東虹苑中央公園集会所

【参加者数】

- ◆東虹苑地区住民約20名

【内容】

- ◆館山市の公共交通の現状について、資料を用い説明（市企画課職員）
- ◆路線バスの乗り方、65歳以上の免許返納者向け割引制度説明（館山日東バス社員）
- ◆グループワーク
 - 参加者をA・Bの2グループに分割し、それぞれに市企画課職員を配置
 - 下記2つのテーマについて、参加者が意見を出し合い、それを付箋に記入し可視化
 - 【テーマ1】地区の課題や特徴を考えたとき、どのような交通がふさわしいと思うか？
 - 【テーマ2】テーマ1の交通を実現・維持していくために何ができるか、またどうすればよいか？

※ファシリテーションは各グループの市職員が担当

- 最後に、市職員が各グループで出た意見等を発表

2.東虹苑地区の特徴など

【地区の生い立ち、特徴】

- ◆館山市内神余（かなまり）集落の丘陵部に造成された住宅地
- ◆定住者のほか、別荘として使用している人も多数存在する

【商店分布・交通の状況】

- ◆丘陵部のため、付近にスーパーマーケットや医療機関等は存在しない
- ◆これまで、地区内に公共交通が通ったことはない
- ◆バス路線は、県道沿いに「豊房線」（館山日東バス）が1日4.5往復運行
最寄バス停は県道上の「上神余」バス停

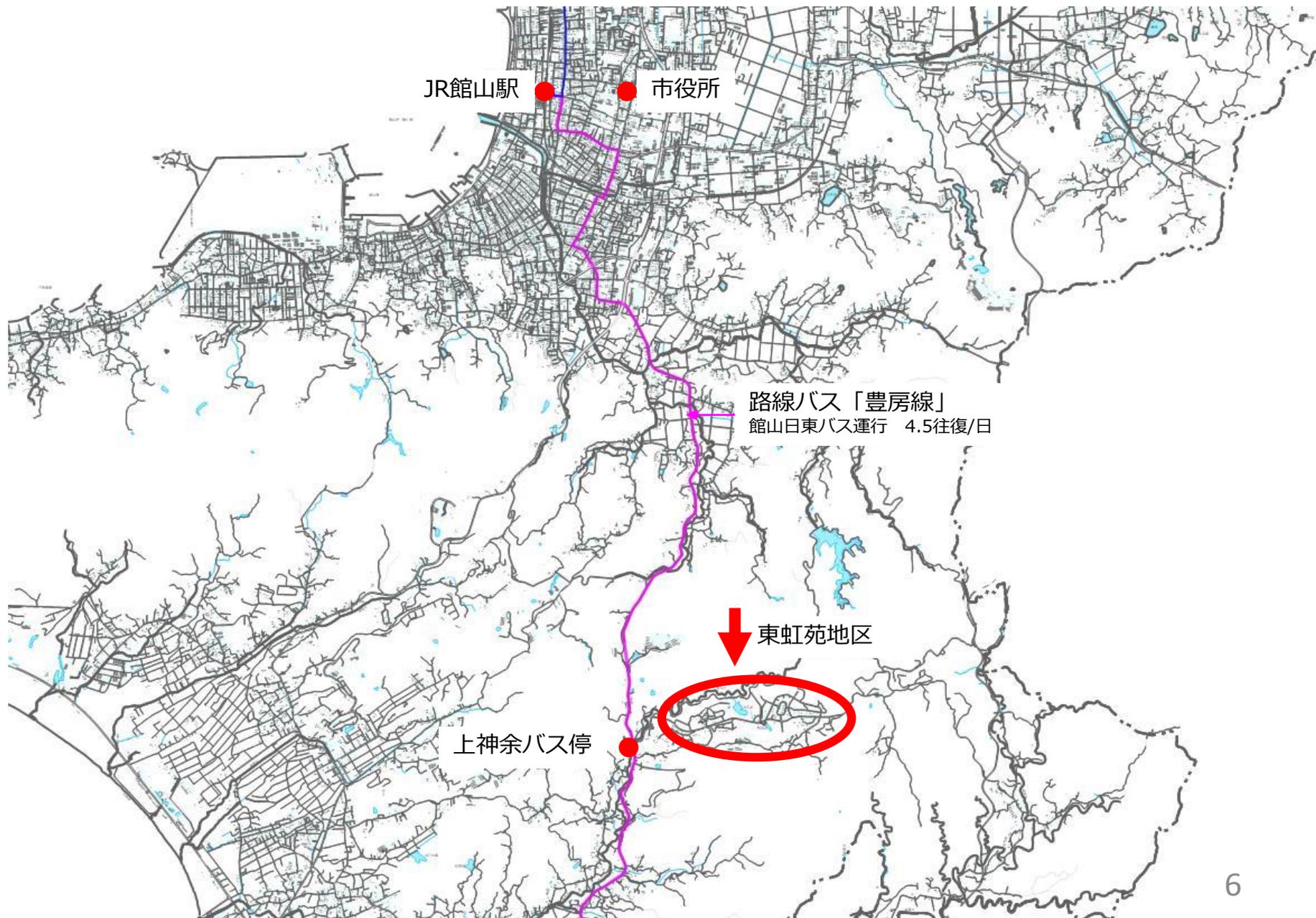
【人口の状況等】

- ◆若者世代の流入も見られ、年々人が増えているが、一方で高齢化も進んでいる
（地域住民談）

【館山駅・最寄バス停からの距離】

- ◆JR館山駅から東虹苑中央公園集会所まで約9km
- ◆最寄の上神余バス停から東虹苑西集会所まで約1km
東虹苑中央公園集会所まで約1.5km、地区の一番奥まででは2km超

2-1.東虹苑の位置 (GIS地図から)



3.館山市の公共交通の現状に関する説明

【説明内容】

- ◆鉄道・路線バス・タクシーとも、利用者が減少傾向であること
- ◆加えて、バス・タクシー業界では担い手不足や高齢化が課題であること
- ◆事業者の独立採算では公共交通の維持が難しくなっていること
- ◆公共交通を維持していくためには、行政・事業者・住民皆が「自分ごと」として捉え、連携して取り組んでいく必要があること

4.路線バスの乗り方、65歳以上の免許返納者向け路線バス割引制度の説明

【説明内容】

- ◆基本的な路線バスの乗り方について
- ◆65歳以上の免許返納者向け路線バス割引制度「ノーカーサポート優待証」の内容や発行方法などについて

5.グループワーク

○A、Bの2グループに分かれ、意見を出し合った。（結果は9ページ以降に記載）

【主な内容】

◆公共交通を利用するなら、東虹苑内にバスや乗合タクシーなどが乗り入れることが大前提 ※現状ではバス停まで遠く、バスは利用できない

- ・1日数便でも、週に2回程度でも良いので乗り入れてほしい
- ・デマンド交通は事前予約が面倒なため、決まった時間に走る形態の方が良い
- ・東虹苑内はフリー乗降にするなど、利便性を高めてほしい

◆病院と連携し、病院の送迎バスに一般客も乗れるようにならないか

- ・週に2回ほど、館山病院の送迎バスが東虹苑内に入ってくる
- ・行政等が病院の送迎バス費用を一部負担し、一般客も乗れるようにしてほしい
- ・商業施設、医療機関等に費用の一部を負担してもらい、バスを運行したらどうか
- ・介護施設・デイサービスの空いている車両も活用できるのではないか

◆商業施設や医療機関を巡る循環バス（コミュニティバス）が必要

- ・外出の目的は、だいたい通院か買物である
- ・仮に路線バスで館山駅まで行っても、上記の目的を達成できない＝路線が生活実態と合っていない
- ・路線バスと循環バスを接続させ、病院やスーパーに行けるようにしてほしい

◆ボランティアでの助け合い輸送より、公共交通の方が良い

- ・地域のほかの人をお願いするのは不安がある

利用条件

バスを使うなら東虹苑の中まで入ることが前提

自宅からバス停まで2.1kmあるのでバスは使えない

行政の姿勢

交通に対する市の方向性が分からない、信用できない

移動手段の確保は生存権の問題であり、最終的には行政が何とかするしかない

市が安心して老後を過ごせるよう対策を講じる

路線バス

バスを東虹苑に回してくるのが効率的

バスが入ってきてほしい

決まった時間に来る方が使いやすい

デマンドタクシーの事前予約は面倒

東虹苑内にバスを入れ、手を挙げれば乗れる方法に

乗合タクシー

乗合タクシーで目的地に連れて行ってほしい

ワンコインの乗合タクシー導入

バスの利便性

バスのルートが生活実態と合っていない

バスで駅まで来ても病院や買物が済ませられない

便利さが大切である

県道から集落の中まで入ってほしい

市で**循環バス（コミュニティバス）**を走らせ、病院や買物先にアクセスできるようにする

循環バス（コミュニティバス）と路線バスをつないで利用できるようにする

医療機関等との連携

館山病院の送迎バスに一般も乗れるようにならないか

医療との連携を行政がもっと考えていくべき

医療機関や商業施設を巻き込み、資金提供をお願いして協賛先を巡るバスを運行してはどうか

公共交通を創設・維持
するためやれること

**病院の送迎バスとの連携
(行政が一部費用を負担)**

具体的に費用がどのくらいか、
どういう交通を考えているか、
プランがないと議論できない

どうしたら便利になるかアンケート調査をすべき

地区内での利用促進については、
用事がない人まで巻き込むのは難しい

その他の意見

自転車の利用者対策を
県道は大変危険

サイクリストも大変多いが、
県道走行は命がけ

県道(88号線)の拡張、
自転車でも安心して通れるように

移住促進は行っているが、
交通の問題を含め移住後のサポートも行ってほしい

市に人を集める 若者を集める術を考える
人が増えれば公共交通も維持できる

路線バス

1日数便、朝夕だけでもよいので東虹苑にバスを入れる

バスを自由乗降にする

バス乗り入れは、週に2回などでも構わない

バスは待ち時間などロスタイムがある

駅まで行けば至るところに路線バスがある

デマンド交通

週1~2回、寄るところを決めて運行する（デマンドタクシーなど）

医療機関等との連携

スーパーや病院に出資してもらい、循環バスやコミュニティバスを導入する

館山病院の送迎バスに一般も乗れるようにする

介護施設・デイサービスの空いている車を利用し公共交通にできれば良い

イオンは、最寄駅とイオンを循環するサービスがある

ボランティア輸送

ボランティアやNPOよりもバスなどの公共交通が良い

他の人（ボランティア等）に頼むのは、年齢の問題などもあり不安 公共交通の方が良い

利用目的等

バス利用（外出？）目的は買物か病院

行きたいところに行ける手段がほしい

路線バスはただ来てくれれば良いというわけではない

導入方法

3~5年間地元で負担してバスを入れられないか

まちのイメージ

バス停があるだけで地域のイメージアップにつながる

その他

今はまだニーズがない もう少し現実味が出てくれば

通院する費用を社協が補助してくれた

6.その他の意見等

- ・個人的には、自治会で多少費用負担してでもバス等を走らせてもらいたいと考えている
 - ・ステップのあるバスは高齢者には乗り降りが厳しいので、ノンステップバスを導入してもらいたい
 - ・ノーカーサポート優待証の手続きが面倒だと感じるので、工夫をお願いしたい
 - ・このような会を開くからには、導入可能な公共交通の案やそれに係る費用などを事前に提示し、議論すべきである
 - ・豊房神余地区におけるまちづくりワークショップ開催から1年過ぎたが、プランが何も出てこないというのはおかしいと思う
- 本件については、できることからスタートさせるということで、山荻地区の助け合い活動やサロンの開催などに取り組んでいる状況等を説明